



# 統合失調症について



## 統合失調症とは？

そばに人がいないのに声が聞こえる幻聴や誰かによって監視されたり、攻撃されたりしていると信じ込む被害妄想が主な症状の病気です。幻聴や妄想だけではなく、話の筋道にまとまりがなくなったり、元気や自発性が乏しくなる症状が見られることもあります。

## 発病の時期は？

その大半が 30 歳以前に発病します。

## その原因は？

脳自体に目立った問題はなく、主に神経における情報伝達物質（ドーパミンを始め、多くの種類があります）のバランスの問題であると考えられています。なお、統合失調症が親の子供と健常者が親の子供を比較した養子研究でわかったことですが、発病は親の育てかたが原因ではなく、遺伝的な要素が関係するのです。

## 神経におけるドーパミンの作用

覚せい剤を乱用する人にも統合失調症と同様の幻聴や被害妄想の症状があらわれることがあります。また、覚せい剤をやめたあとでもストレスで幻聴や被害妄想が再燃することもあるのです。

なお、覚せい剤は神経におけるドーパミンの作用を強めます。そこから神経における過剰なドーパミンの作用が幻覚妄想の症状と関係すると推測されたのです。

ドーパミンの過剰な働きを抑える薬が統合失調症の症状にも有効で、現在副作用の少ない薬が多く開発され、使用できるようになっています。



## 治療について

統合失調症になってから薬物療法開始までの期間は未治療期間とよばれ、それを短くすることで再発を抑え、治りやすくなるといわれます。早めの発見治療が重要です。発症から 5 年間は臨界期といい、この時期は再発することが多く、症状悪化も起こりやすい時期です。この時期は統合失調症の治療にとって、とくに重要なのです。規則的な服薬や社会復帰にむけたリハビリが大切です。

## 抗精神病薬について

幻覚妄想のような目立つ症状を陽性症状といい、元気のなさや感情の乏しさといった目立たない症状を陰性症状といいます。抗精神病薬は陽性症状に有効で、陰性症状には効果が余りありませんでしたが、最近開発された薬にはどちらの症状にもある程度有効なものがあります。

## 家族の接し方

親の育て方は統合失調症の発症とは無関係ですが、接し方は再発と関係します。人の怒りや批判にさらされた場合に患者さんの状態が悪化しやすいのです。ご家族がそのような感情を患者さんに向けず、穏やかに接することは治療上有益です。



## リハビリテーション

状態が安定している時期には社会復帰へのリハビリテーションが大切です。他の患者さんと一緒にゲームなどのいろいろな活動をする事で社会性を育むデイケア、簡単な作業に取り組むことで作業能力や集中力を高める作業所があります。これらの取り組みは無為に過ごすことを減らし、規則的な生活をしていくためにも重要です。



## 経過

人それぞれですが、薬の進歩もあり、以前より症状が軽くなっています。患者さんの 45% で症状がよくなり、患者さんの 75% で社会生活をできるまで回復するという報告があります。いろいろな点から取り組むことで、改善する可能性があるのです。

